



Interview

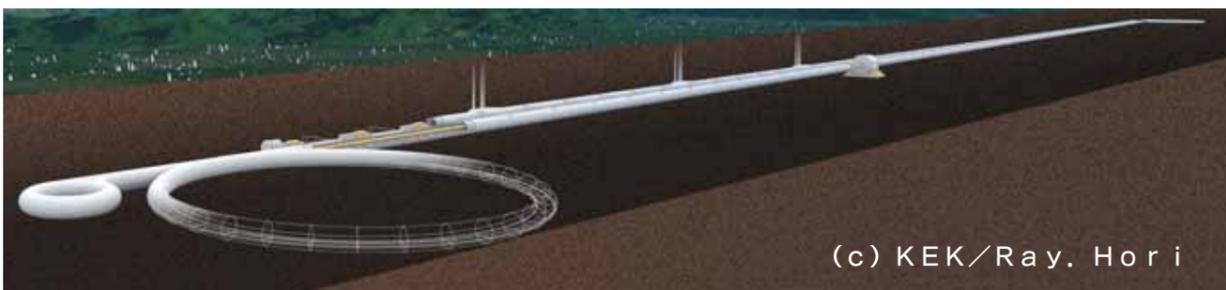
水沢南中学校2年
立野 嵩陽さん

ILCで奥州市をもっと魅力的なまちに

1月4日から7日まで、市中学生科学体験研修に参加し、多くのことを学びました。その中でも今一番興味があるのはILCです。円形の加速器だと、遠心力などの影響でエネルギーが失われるため、直線型の加速器を建設に取り組んでいると聞きました。宇宙の始まりを探ったり、加速器の技術をがん治療に応用したりと、とてもすごい研究施設です。ILCが奥州市にできるかもしれないと聞いて、ワクワクしています。世界中から大勢の人たちが来ることで、国際的で豊かなまちになってほしいです。

まだまだ周りにはILCや研究のことを知らない人が多いので、小学生にも分かりやすく、みんなに夢を与えるような宣伝をしてもらいたいです。

ILCのイメージ図。その全長は31～50キロにも及ぶ



Interview

特定非営利活動法人イーハトーブ宇宙実践センター
おおえ まさつぐ 理事長

ILCの魅力を もっと皆さんに伝えたい

1月16日に、市民や産業界レベルで科学的な風土醸成を目指す民間組織「いわてILC加速器科学推進会議」を立ち上げました。日本の科学、世界の科学の拠点が奥州市にできるかもしれません。北上山地は水はけが良く、建設費用に対する効果も良好と言われているだけに、ぜひ建設が実現してほしいですね。

今後、エネルギーの原理や技術の応用などを市民にわかりやすく伝えるため、独自の勉強会や講演会を開催したいと考えています。市には、講師の招へいやPRの面で協力してほしいですね。また、外国の人々を温かく受け入れる地域社会を形成したいと考えています。ILCによって県南地域が高度な学問の場、大きな希望を持てる場になるきっかけになればうれしいですね。



TOHOKU 国際科学技術研究特区

- ・ 国家プロジェクトとして中核となる拠点研究機関の誘致
- ・ 研究開発税制や進出企業の法人税減税など
- ・ 外国人研究者の受け入れ促進（ビザ取得手続きの迅速化、在留資格要件の緩和など）

建設へ向けた動き

国内におけるILC計画の実現に向けた動きは、23年6月11日の「東日本大震災復興構想会議」の第9回会合において、達増拓也県知事が岩手復興特区の一つとして「TOHOKU 国際科学技術研究特区」(※)を提案したことで大きく動き出しました。

世界の研究者が想定している今後の予定では、ことしの上旬には建設ルートや建設費などをまとめた技術設計の最終報告が行われます。25年からは日本、アメリカ、EU政府に建設を提案し、以降は政府

間協議により建設地が決定される予定です。

ILCの誘致へ向けて

ILCは全長31～50キロにも及ぶ地下トンネルに建設される大規模研究施設。稼動すれば1000人を超える研究者や家族が常駐することになり、新しい国際研究都市が形成されることとなります。

建設費は約8000億円にもなり、地域に対する経済効果は非常に大きいものになります。建設に係る土木や建築、電気分野での直接的効果も大きく、施設の維持管理のための企業の進出や研究所の運営のため清掃や食堂、警備などで地元雇用も期待できます。

欧州原子核研究機構(CERN)で建設した加速器は、建設費に対して3倍の経済効果をもたらすといわれており、それを考えるとILCによる経済効果は非常に莫大なものになります。

現に向けて、市は、県や関係機関との連携を一層強め、実現に向けた取り組みの強化を図っていきます。

世界中の研究者が「ILC建設実現には地域の皆さんの熱意や支援、協力が必要」と強調しており、建設実現へ向け、市全体としてこの機運をさらに高めることが不可欠で

す。市は、講演会のほか、勉強会や広報活動、情報発信を行い、東北復興の象徴として、ILCの建設が実現するよう、さらなる活動を展開していきます。また、ILCの建設によって、世界に誇れる国際色豊かな研究都市の形成を目指します。

スイスにあるCERNのLHCは27キロもの円周を誇る

